

8月12日。草原に象徴されるモンゴルの首都ウランバートルにある大統領官邸内のパオで、ナムバリン・エンフバヤル大統領と会った。小泉純一郎首相が大統領に会見した翌日だった。

大統領は茶色に緑がかった瞳の精悍な48歳。このパオは大統領が休日にくつろぐ私的な執務室である。約10坪の円形の内部には一般的な家具に加えて、執務机、応接セット、テレビ、パソコンなどが整然とあてやかな絨毯の上に置かれていた。

緊張しながら大統領にお願いした。AMDAモンゴル支部の設立、モンゴル国立大学との協定、そして災害医療センターを想定したAMDAピースセンター設立に関する要望である。前向きな返答を得た。2泊3日の強行軍が報われた。

私が宿泊した迎賓館は大統領

領官邸の前にある。社会主義政権時に建てられたソ連様式の大きくて威圧的な建築物である。シャンデリアの輝く豪華なホール、天井が高く広い空間にぼつんと食卓が置かれた食堂、そしてそれぞれ

大統領官邸、首相官邸と迎賓館はセットでウランバートル郊外の山奥にある谷間に建てられ、厳重に警護されていた。小泉首相一行は、不便な位置にある迎賓館を避けて、もっと便利な市内にある高級ホテルを利用して、おかげで私は貴重な経験をする事ができた。

モンゴル支部を必要としたのは、AMDAがロシア連邦、朝鮮民主主義人民共和国そして中華人民共和国などで実施した過去の救援活動に、モンゴル支部があればもっとダイナミックな活動の展開が可能だったからである。例えば、サハリン大地

### 請要に大統領を設立を支部モンゴル

震救援(95年5月)、北朝鮮大洪水救援(98年4月)、ロシア連邦・サハ共和国大洪水救援(98年6月)、中国雲南省大地震救援(96年2月)、中国貴州省洪水救援(96年7月)、中国河北省大地震救援(98年1月)などである。

AMDA多国籍医師団は東南アジアや西南アジアにおける自然災害救援活動に必要な体制を整備してきた。次は東アジアやユーラシア大陸における災害救援体制の整備である。この視点からモンゴル支部設立は不可欠である。

AMDAピースセンターの設立予定地は、ウランバートル市郊外に24年前に建設されたモンゴル最古のダムバダルジャン寺院境内である。最盛期には数百人いた僧侶も、現在は荒廃して30人である。モンゴルでは社会主義革命政権下、1万人以上の僧侶が殺され、チベット仏教は徹底的に弾圧された。この寺院も第二次世界大戦後は日本人抑留者の病院として使用された。帰国を願いがら異国の地で病に倒れた同胞を治療してきた抑留者仲間医師がいる。現在81歳である。モンゴル全土における抑留者の死者に関する情報を収集した貴重な資料館を、身銭を切って境内に建設している。当時の苛酷な状況下、医師として同胞を死なせないことを大前提として治療したために、過剰治療行為として自らが監獄に入れられた経緯談は涙なくしては聞けなかった。

AMDA代表  
題字は筆者